

- 小菅村では、不在地主の増加で手入れ不足の人工林が増えたことにより、家屋等への日照時間の減少や土砂災害発生の危険性の高まり等の問題が生じていることから、森林経営管理制度に基づく間伐を進めるとともに、森林環境譲与税を財源として森林組合等における間伐材のうち、利用価値の低いC材・D材を日帰り温泉施設の薪ボイラーの薪として使用していく方針である。
- 令和2年度は、休眠状態であった森林組合小菅事業所を薪製造と薪の保管施設（ストックヤード）として有効活用を図ることができ、令和3年度においては、野積みされていた薪を整理するためのラックを整備したことで、薪の乾燥及び運搬工程を改善することができた。
- 令和4年度においては、不足している薪保管用のラックを整備し、また、個人から薪用の材を買取る仕組みづくりを進めている。

事業内容

1 薪ストックヤード施設

- ・ 休眠状態であった森林組合小菅事業所を薪製造と薪の保管施設（ストックヤード）として有効に活用

【事業費】1,294千円（全額譲与税1,294千円）

（譲与税は、森林組合小菅事業所の施設利用に係る部分に充当）

【実績】日帰り温泉施設のスタッフが薪割り業務に従事 5人

2 薪保管用ラックの整備

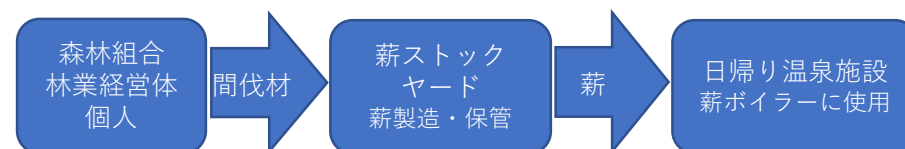
- ・ 野積みされていた薪を整理するためのラックを整備したことで、薪の乾燥及び運搬工程を改善

【事業費】1,933千円（全額譲与税1,933千円）

【実績】薪保管用ラック80台

事業スキーム

- ・ 薪製造から利用までの流れ



工夫・留意した点

- ・ 森林整備を進める中で市場価値が低いとされるC材、D材を有効に活用することが長年の懸案事項となっていたが、薪として利用することにより新たな価値を生み出すことができ、森林整備の更なる推進が期待できる。
- ・ 薪ストックヤードの運営を日帰り温泉施設のスタッフが行うことにより、新たに発生した費用は施設の使用料のみで、その他運営に係る人件費の発生を抑えることができた。

基礎データ

① 令和4年度譲与額	8,526千円
② 私有林人工林面積（※1）	1,123ha
③ 林野率（※2）	93.9%
④ 人口（※3）	684人
⑤ 林業就業者数（※4）	23人

※1.2：「2020農林業センサス」より ※3：「R2国勢調査」より

※4：「H27年国勢調査」より



（事業2：野積みされた薪）



（事業2：ラック積み込み）



（事業2：薪の運搬）